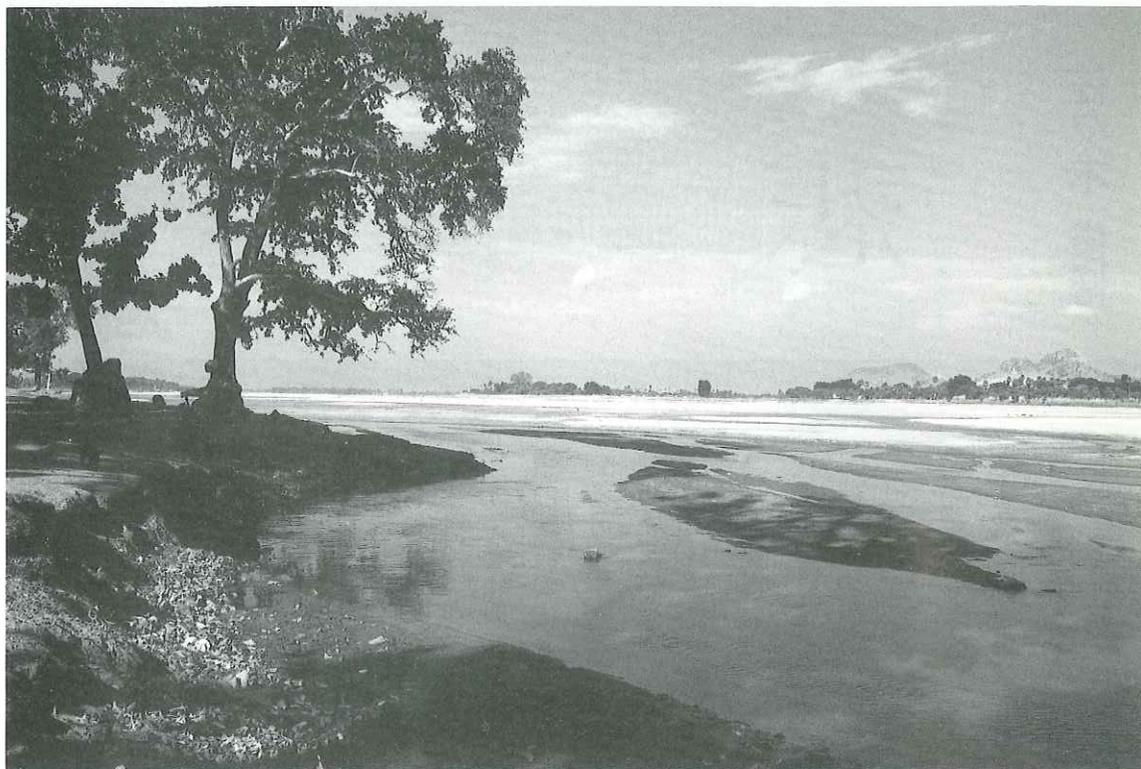


そほう  
組 報

# かながわ

No.8 1995.3.15

## 身近なお寺の情報誌

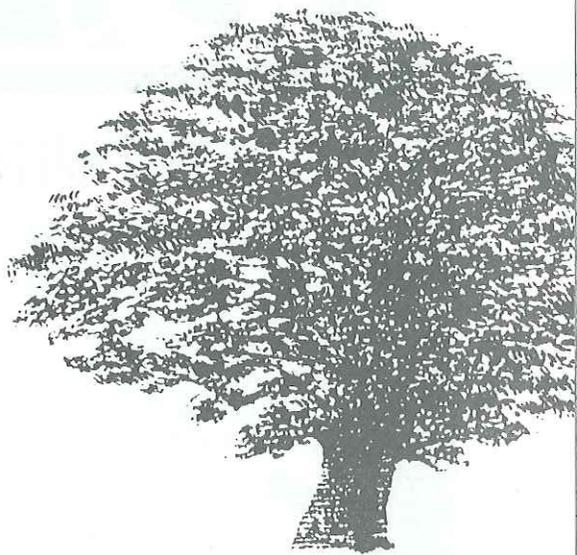


インド・ブダガヤ近くの尼連禪河より、前正覚山を望む。

愚かにも人間は、土地を所有すればこれを所有していることで憂いを持ち、住宅を所有すればこれを所有していることで憂いを持つ。さらには、土地が無ければまた憂いて土地を所有したいと欲し、住宅が無ければまた憂いてこれを所有したいと欲する。<sup>\*</sup>  
(仏説無量寿經)

浄土真宗本願寺派

そほう かながわ 第8号



み教えに聞く ●●●●●

# 同体の大悲

佐々木 俊博

一月十七日早朝、淡路島を震源に起こった阪神大震災。早、あの惨劇から一カ月が過ぎ去ろうとしている。国内では、これほどの被害を出した地震は、関東大震災以来のことである。

記憶に新しいものを思い出すと、小学生などの津波による死者を出した日本海中部地震・奥尻島を大津波が襲った北海道南西沖地震などがある。日本列島のどこに巨大地震が起きてもおかしくないのが現実なのだ。

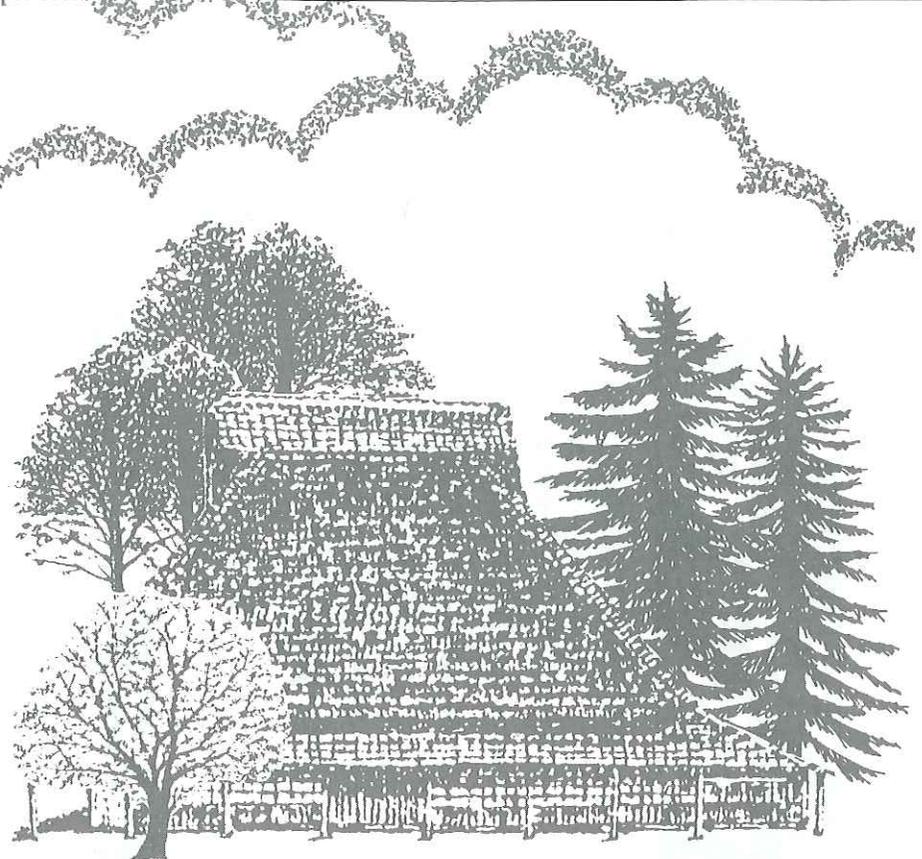
まことに申し訳ないことであるが、私は今まで、それらの地震の被害を聞いていても、「気の毒に」とか「かわいそうに」とは思っただけでも、いつもひとごとのように考えていた。しかし、この度の地震の報道にふれるたび、明日は我が身という思いが起こってくる。関東に大きな地震が起こったら、家はどうなるのだろうかと考えたてしまう。ところが、阪神地区で今苦しみ悩んでいるひとびとへの思いは、残念ながら、ほんの一時しか続かない。その場では同情の仮面はいくらでもかぶれる。だが、結局はどこまでいってもひとごとである。どこまでいっても我と他をわけてものごとを考えているのである。どうにもならない人間の性なのであろうか。釈尊は、そのような人間を有碍人と悲しまれている。

現地では、震災後、ボランティアが大活躍している。ひとりひとりの力は小さいが、多くのひとの思いやりと合致して素晴らしい働きをしている。被災された方々にとって大きな救いとなったことであろう。限界のある人間のころろであつても、みなのお思いが一致すれば大きな力を発揮する。とはいえ、被災者の方々のこれからの苦労を想うと、さらに、できるだけ多くの人の力が集まることを望みたい。

それにひきかえ、阿弥陀さまは、すべての人を救うために働き続けていくくださる。阿弥陀さまは、ひとの喜びも・苦しみも・悲しみも、すべて我がことと受け取り、感じて、一緒に喜び・苦しみ・悲しんでくださると聞いている。ひとりも見捨てることはない。まさに「同体の大悲」をもって、いのちの全てを引き受けてくださる。私のいのちも、また被災地のひとびとの命も……。阪神大震災のひとびとの苦しみを見るにつけ、阿弥陀さまの苦労を思う。

被災地のひとびとは阿弥陀さまのお慈悲の中で頑張っている。我と他と区別することのない無碍人のごとく、私にも、少しでも阿弥陀さまのお手伝いができないものかと思う。

南無阿弥陀仏



# 平和への取り組みを進め、いのちの尊厳をまもろう 終戦五十周年全戦没者追悼法要

六月二十四日  
日比谷公会堂で

先の大戦が終結して、今年で五十年を経過しました。  
今こそ私たちは、「世の中安穏なれ仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人のお心に立ち返り、敵味方を問わずあらゆる戦争犠牲者をしのびつつ、仏祖に頭を垂れて慚愧すべき時でありましょう。  
宗門においては、戦争犠牲者を追悼し、非戦平和への取り組みを進める機縁とすべく、各地で終

戦五十周年追悼法要が営まれています。  
東京教区では、本年六月二十四日(土)、日比谷公会堂を会場に、終戦五十周年追悼法要を執り行います。  
行事内容として、音楽法要による式典や記念講演、ゲストには植木等氏が予定されています。また、併せて戦争資料などの展示も計画されています。

## 組の動きを ふりかえる

一九九四年(平成六)年度・神奈川組活動報告  
'94年4月～'95年3月

◆第三期神奈川組連続研修会  
一九九三年四月にスタートした第三期連続研修会も、全課程の十二回

を終了し、五十七名の方が三月の修了式を迎えます。  
連研は、組内寺院のご門徒を対象

に、浄土真宗のみ教えを学ぶもので、今期は、神奈川組独自で作成した「連研ノート」をテキストに進められました。

◆神奈川組仏教婦人会連盟「めぐみ会」  
六月八日、高元寺にて総会。向坊弘道師を迎え「よみがえる人生」と題しての記念講演がありました。  
また九月六日には、善龍寺にて研修会。東京教区相談員の池田行信師を講師に「日本人の宗教観」をテー

マに開催されました。

なお「めぐみ会」では、各寺に設置されている「ダーナ募金箱」の浄財を取りまとめ、宗派を通して社会福祉に役立てています。どうぞご協力を。

◆神奈川組仏教壮年会

結成以来四年目を迎え、会員百五十名を越えます盛んに活動中。隔月、早島鏡正師(宣正寺前住職・東大名誉教授)による「正信偈に聞く」の講義が続けられています。

◆第二十三回南ブロックお寺の学校

毎年、仏の子供を育てる目的で開催されている「お寺の学校」。今回も神奈川・静岡・山梨の三県から九十七名の参加者を集め、さる七月二十六日～二十八日、横浜市旭区の清米寺を会場に開催されました。

子供たちは、お勤め、ほとけさまのお話、キャンプファイヤー、「子供の国」ハイキング、きもだめしなど盛りだくさんのプログラムに取り組み、楽しく過すなかで貴重な学習をしました。

今年には山梨県で開催予定。小学三年生から中学三年生が対象ですので、参加希望の方は、所属寺院までお尋ねください。

◆坊守会

浄土真宗では、お寺の奥さんを坊守と呼びます。坊守の連絡と親睦をはかる意味で、五月二十七日には協議会、十二月六日には観劇会、さらに二月七日には西勝寺にて総会が行なわれました。

◆門徒役員研修会

十一月九日、宣正寺にて小笠原博慧師(都留組福泉寺住職)を講師に迎え、「お念仏と日常生活」をテーマに、組内各寺の門徒役員が集まり研修会が開催されました。

◆僧侶研修会

十二月十二日、宝光寺にて組内の僧侶が集まり研修会を開催いたしました。テーマは「業・宿業」で、講師は野口隆嗣師(千葉組延覺寺住職)。

◆布教所・開所式

浄土真宗本願寺派のあらたな拠点として、川崎布教所(加藤孝充専従員)が開設されました。六月二十二日には開所式が営まれました。

◆普請

教覚寺本堂兼会館・新築着工



### テレホン法話

ちよっと一息。電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話  
TEL.03(3541)0282  
TEL.045(662)5629
- 長念寺テレホン法話  
TEL.044(911)8282
- 横浜布教所テレホン法話  
TEL.045(341)5700

### ビハーク電話相談

一老いの悩み、病の苦しみに一

相談日

毎週月・金曜日/午後2時～5時

浄土真宗東京ビハーク(築地本願寺内)

TEL.03(5565)3418

■本山の日常行事

晨朝勤行／夏期は毎日午前6時より。冬期は毎日午前6時半より。 常例  
布教／朝席は晨朝後引き続き御影堂にて。昼席は午後2時より総会所にて。  
夜席は午後7時より総会所にて。 日曜講演／毎日曜午前9時半より本願寺  
会館にて。

■帰敬式（おかみそり）は、通常、毎日晨朝後と午後1時30分との2回受  
式できます。個人の申し込みは、帰敬式の1時間前までに参拝部へ。

■在家法物について

お仏壇に安置するご本尊などの法物は参拝部の法物係にてお受けすることが  
できます。

■本願寺の書院は、桃山時代から江戸時代初期の建築様式を伝え、貴重な障  
壁画があります。参観には、往復ハガキでの申し込みが必要。参観希望日時  
（第2・3希望を記入）人数などを明記し、参拝部宛お申し込みください。  
なお、当日並びに電話での受付はいたしません。参観時間は、午前10時と11  
時。午後1時半と2時半。（日曜・祝日及び土曜又は指定時間以外の参観は  
できません）。但し、法要行事開催中は参観中止のこともあります。【申込先】  
〒600 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前 本願寺内 参拝部

■門徒会館は、本山への参拝者の宿泊施設で、個人参拝や団体参拝をはじめ  
念仏奉仕団・各種研修会・法事等にご利用いただけます。ご宿泊は、当日の  
午後4時より翌日の午前10時まで。門限は午後10時です。個人の場合、1人  
1泊2食付=6,500円。夕食付=5,500円。朝食付=4,500円。素泊り=4,000  
円。申し込み方法は、あらかじめ、門徒会館に電話あるいは郵便でお問い合わ  
せください。【申し込み・問い合わせ先】〒600 京都市下花屋町通堀川西入ル  
柿本町580-2 本願寺門徒会館 TEL075(361)4436(代) FAX075(351)0847

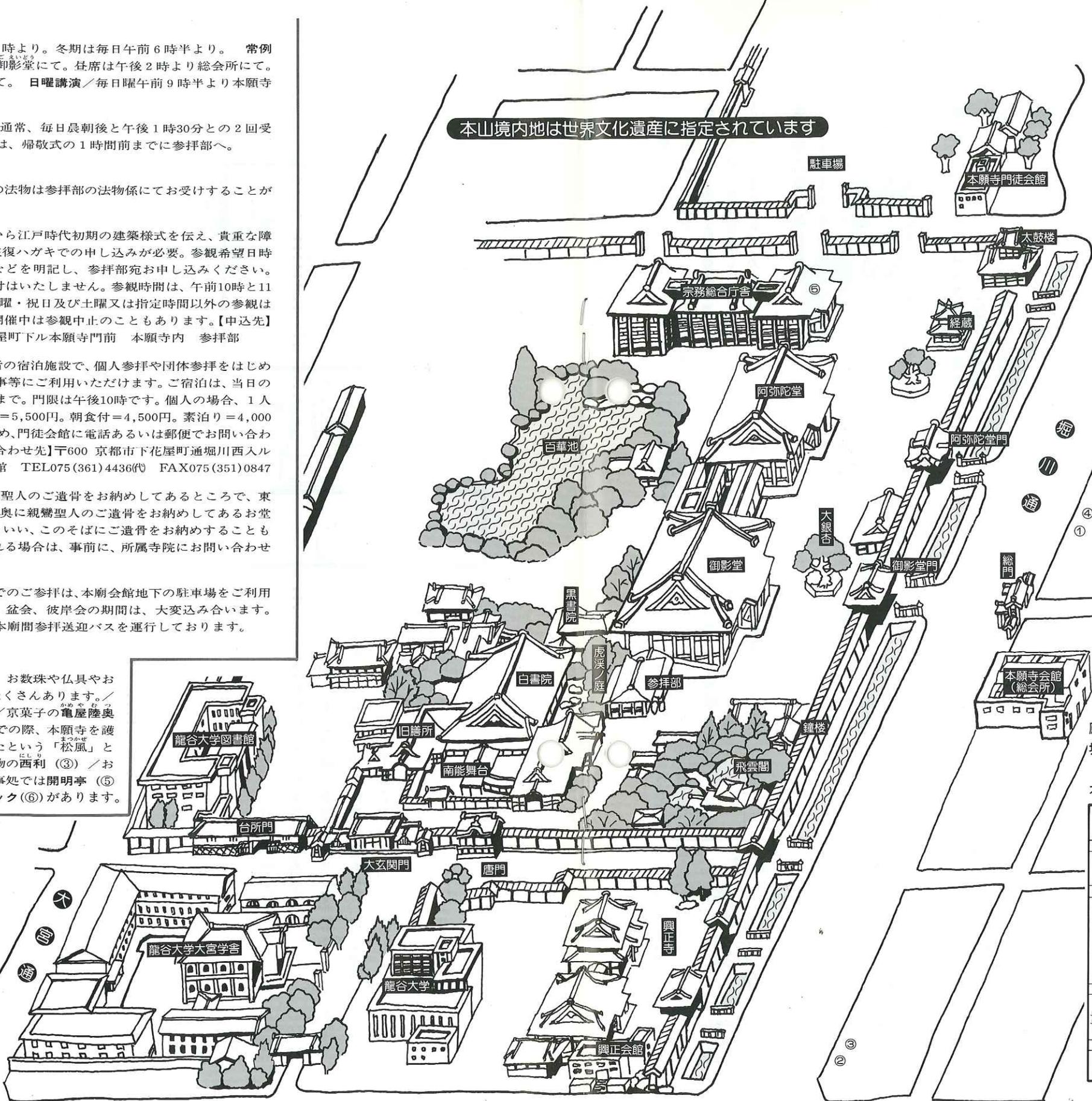
■大谷本廟（西大谷）は、親鸞聖人のご遺骨をお納めしてあるところで、東  
山五条坂にあります。明善堂の奥に親鸞聖人のご遺骨をお納めしてあるお堂  
があります。この場所を祖檀といい、このそばにご遺骨をお納めすることも  
できます。祖檀納骨を希望される場合は、事前に、所属寺院にお問い合わせ  
ください。

■大谷本廟への交通／乗用車でのご参拝は、本廟会館地下の駐車場をご利用  
ください。但し、日曜、祝日、盆会、彼岸会の期間は、大変込み合います。  
この期間には西本願寺と大谷本廟間参拝送迎バスを運行しております。

■お土産ガイド

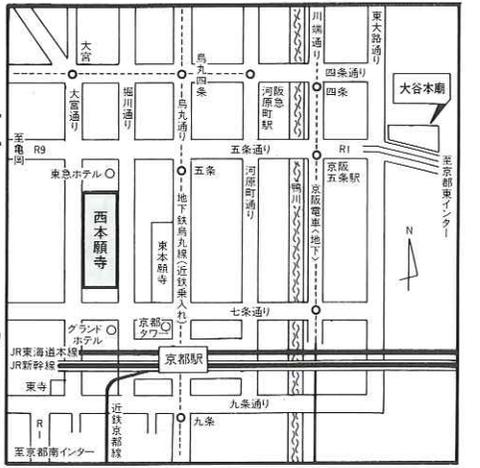
本願寺の門前やその周辺には、お数珠や仏具やお  
土産ものを売っているお店がたくさんあります。  
お香の負野薫玉堂（地図①）／京菓子の亀屋陸奥  
（②）では、16世紀の石山合戦の際、本願寺を護  
ろうとした人々の糧食になったという「松風」と  
いうお菓子があります／京漬物の西利（③）／お  
たべのいちょうや（④）／食事処では開明亭（⑤）  
宗務総合庁舎B1F）やハイコック（⑥）があります。

本山境内地は世界文化遺産に指定されています



京都西本願寺周辺マップ  
—— 本山参りの手引き ——

浄土真宗本願寺派の本山は、京都の西本願寺です。京都駅より西北に歩いて約12分。堀川通ぞいにあります。  
なお京都駅のすぐ北、烏丸通ぞいには東本願寺があります。

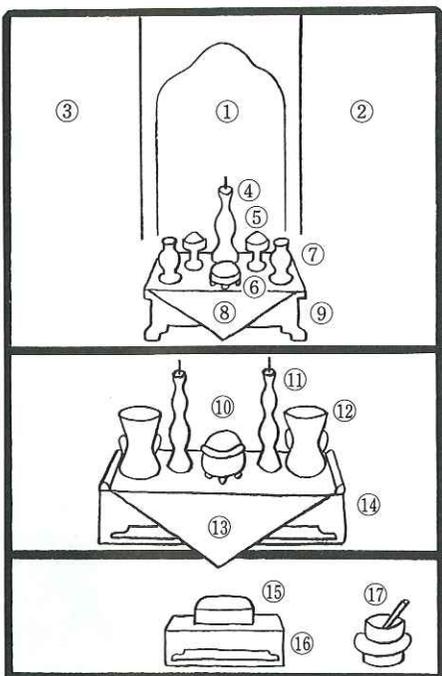


# 仏壇の

# お荘厳しょうごん

——自己流のお飾りをしていませんか  
 お仏壇の中の仏具をどう配置するか、つまりお荘厳のしかたですが、このことが曖昧なまま、自己流で配置されている方が以外に多いようです。

まず、奥の中央にはご本尊を安置します。ご本尊は、阿弥陀如来のご絵像もしくはお木像、あるいは六字名号（南無阿弥陀仏）です。向かってその右には、親鸞聖人のご影または十字名号（帰命尽十方無碍光如来）の掛け軸。左には、蓮如上人のご影または九字名号（南無不思議光如来）の掛け軸を安置します。これらの



- ①ご本尊（ご絵像またはお木像またはお名号）
- ②親鸞聖人ご影または十字名号
- ③蓮如上人ご影または九字名号
- ④ローソク立て
- ⑤仏飯器
- ⑥火舎
- ⑦華瓶
- ⑧打敷
- ⑨上卓
- ⑩香炉
- ⑪花瓶
- ⑫前卓
- ⑬経本・聖典など
- ⑭経机
- ⑮りん

ご本尊や左右の掛け軸は、所属のお寺を通してご本山よりいただくようにしてください。  
 手前には、三具足または、五具足を配置します。三具足とは、中央に香炉、向かって左には花瓶、右にローソク立てを配する置き方です。五具足とは、香炉を中央に、その左右にローソク立てを一对、さらにその外側左右に花瓶を一对置くという並べ方です。ただしこれは報恩講や特別な行事のときにするもので、通常は三具足にしておきます。その他の仏具については、図を参考にして配置してください。

### ——これだけはそろえたい（お仏壇の基本）

お荘厳の主旨は、阿弥陀如来の真実（まこと）の心を、形を通して味わうことにあります。ですから、図のようなお荘厳がそろわなくてもかまいません。ご本尊を中心に安置し、三具足を整える。これが基本であり、これだけでも立派なお荘厳です。

なお、お仏壇は、あくまでもご本尊が礼拝の対象ですから、位牌を中心に置くことはいいたしません。またお札やお守りは不要です。不明な点は、どうぞ所属のお寺にご相談ください。

正しく美しくお飾りすることにより、如来さまのお心に触れさせて頂きましょう。



## インド様式の本堂 宝円寺

川崎市川崎区境町五十一

お寺を訪ねて (7)

川崎駅から市役所通りを海に向かい、徒歩十五分、川崎球場のとなりに宝円寺はある。

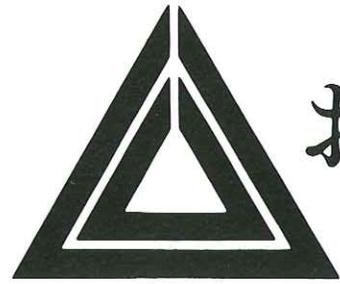
大正十三年に先代住職・釋海円法師によってこの地に川崎説教所として開かれた。そして、昭和二年、伊豆下田の下嶋より宝円寺の寺号を譲り受け現在に至っている。

開創当時、この周辺は田園風景ののどかな地であったが、今では京浜工業地帯の入り口である。市の公共施設が立ち並び、交通も至便な街に変貌した。

現在の本堂は鉄筋二階建てで、昭和四十七年に着工、四十九年に完成した。一般的な木造本堂とは違い、インド様式のドーム型建築物である。築地本願寺を彷彿とさせるこの建物は、現住職・飯田琢亮師みずから設計に加わり、奥行き長い土地をいかに有効に使うかを考えて建てられた。外観は鉄筋だが、「是非とも、内陣は木造に」という思いから、木材選びも苦勞に苦勞を重ね、木場から当時貴重な台湾ひのきを取り寄せ造られた。

宝円寺では、毎月三回（五日、十五日、二十五日）の定例法座を開いている。法話には、当寺院の住職、副住職が担当し、「どなたでもお寺にお参り頂きたい」と、開かれたお寺を目指している。定例法座は、戦時中の空襲のときを除けば、開設当初より一度も欠かしたことがないという。是非ご参拝頂きたい。

手のしわとしわを合わせて…しあわせ



お仏壇の

はせがわ



お仏壇の  
はせがわ



テレビでおなじみの  
……ゆうこちゃん

お仏壇のある豊かな暮らしをお届けします。

お仏壇のはせがわ

会社概要

資本金：38億5,100万円  
株式総数：1,459万株  
社員数：900名  
製造部：株式会社はせがわ美術工芸(国宝美術品、寺院神社)  
株式会社長谷川仏壇製作所(純金箔仏壇)  
長谷川江川木工(唐木仏壇)  
南長谷川唐木仏壇製作所(唐木仏壇)

業界初の  
上場企業

ホームセンター事業部：代0489-83-1511  
昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂  
昭和大修復事業  
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子・三重塔  
堂内修復事業  
昭和63年 福岡証券取引所業界初の株式上場  
株式上場大阪証券取引所2部(福岡証券取引所)

横浜・川崎地区の店舗ご案内

- 上大岡店 横浜市港南区日野5-1-25 ☎045-844-5740
- 戸塚店 横浜市戸塚区柏尾町440-1 ☎045-824-1166
- 今宿店 横浜市旭区今宿東町1621 ☎045-951-5311
- 新杉田店 横浜市磯子区杉田1-2-3 ☎045-774-6011
- 金沢文庫店 横浜市金沢区谷津町352-7 ☎045-701-4594
- 大船店 神奈川県鎌倉市岩瀬1-15-18 ☎0467-46-4235
- 川崎店 川崎市川崎区東田町2-1 ☎044-222-7577
- 鷺沼店 川崎市宮前区東有馬1-1-19 ☎044-852-1268
- 鶴見店 横浜市鶴見区駒岡4-23-4 ☎045-583-2271
- 町田店 東京都町田市市中町1-21-14 ☎0427-29-6711

営業時間 午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



浄土真宗本願寺派 わたしたちのお寺です

神奈川組

- 円光寺 千210 川崎市川崎区台町4-21  
石川 康承 ☎044-266-2677
- 宝円寺 千210 川崎市川崎区境町5-10  
飯田 琢亮 ☎044-222-3941
- 光徳寺 千210 川崎市川崎区京町1-14-3  
林 信順 ☎044-333-3997
- 正楽寺 千210 川崎市幸区南幸町2-49  
佐々木泰博 ☎044-522-1961
- 高元寺 千211 川崎市中区宮内4-3-12  
宮本 義孝 ☎044-777-6544
- 長念寺 千214 川崎市多摩区登戸1416  
小林 泰善 ☎044-911-2549
- 常念寺 千215 川崎市麻生区栗木203  
古市 溪峰 ☎044-988-0205
- 善龍寺 千221 横浜市神奈川区斎藤分町33  
斎藤 幸紹 ☎045-491-9431
- 善教寺 千223 横浜市港北区新羽町2396  
平等 勝尊 ☎045-541-7684
- 教覚寺 千223 横浜市港北区新羽町2395  
平等 真証 ☎045-531-5050
- 光輪寺 千223 横浜市港北区下田町3-2-9  
村石 恵照 ☎045-561-8671
- 東善寺 千224 横浜市都筑区中川7-18-29  
長谷尾 芳雄 ☎045-911-3509
- 寿福寺 千224 横浜市都筑区茅ヶ崎町1026  
多田 晨向 ☎045-942-3765
- 最乗寺 千224 横浜市都筑区勝田町1277  
日野 教昭 ☎045-941-3541

- 長徳寺 千224 横浜市都筑区牛久保西3-9-1  
平塚 大乘 ☎045-911-7351
- 西勝寺 千225 横浜市青葉区新石川1-10-8  
藤下 梯乗 ☎045-911-0156
- 長延寺 千226 横浜市緑区三保町2440  
雲居 隆栄 ☎045-932-3348
- 最願寺 千230 横浜市鶴見区矢向4-19-18  
藤江 昭道 ☎045-571-4694
- 宝光寺 千231 横浜市中区桜木町3-5  
藤田 恭順 ☎045-201-3509
- 宣正寺 千232 横浜南区中里3-20-18  
早島 大英 ☎045-731-2679
- 善然寺 千232 横浜南区大岡2-26-17  
永野 弥然 ☎045-741-2351
- 清来寺 千241 横浜市旭区今宿南町1895  
曾我 求真 ☎045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

- 横浜布教所 千240 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19  
開田 蓮成 ☎045-341-7455
- 三ツ境布教所 千241 横浜市旭区笹野台3-9-9  
原田 晃英 ☎045-364-2266
- 横浜緑布教所 千224 横浜市都筑区加賀原2-18-1  
小泉 敬信 ☎045-934-8648
- 磯子布教所 千235 横浜市磯子区磯子3-7-12  
中戸 達雄 ☎045-752-2506
- 川崎布教所 千213 川崎市高津区下作延845-16  
加藤 孝充 ☎044-855-2780

「神奈川組」とは…

私たちの教団(浄土真宗本願寺派)は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長/永野 弥然  
副組長/林 信順  
副組長/斎藤 幸紹  
教区会議員/曾我 求真  
相談員/小林 泰善

しゃば  
娑婆

身近にある仏教語

この世のことを仏教では「娑婆」と呼びますが、この語は、耐え忍ぶ世界を意味する梵語の「サハー」という言葉が音写されたものです。

私たちの人生は、なかなか思いどおりにはならないことばかりで、苦悩とともに生きていかざるを得ないのが現実であります。まさにその意味では、この世は一人ひとりが耐え忍ばなければ、生きていけないところであるといえます。ですから、「忍土」と書き表すこともあります。

ただし、娑婆とは「われこそが耐え忍んで生きているのだ」と誇示する世界なのだと、勘違いしてはなりません。むしろ周りの人たちに耐え忍んでもらい、ゆるされて生かされている私だということに、目覚めてゆく世界が「娑婆」の意味するところでありましょう。まことに釈尊が、この世のことを、耐え忍ぶ世界と表現したことには、深い示唆があります。

編集後記

◆ここ数年間に、立て続けに起こっている災害。雲仙・奥尻・阪神…。今、私たちは何ができるのか、何をしなければならぬかを、もう一度考えなければならぬ。

◆宗派の要請により、被災地へ行く。その厳しい現実テレビで見るとは大違い。倒壊した寺院から法物や仏具・過去帳などを掘り出す。被災した人々の安らぎの場となる寺院のより早い復興を願う。

◆猛暑の中のお寺の林間学校。神奈川組が担当し、子供達と過ごした三日間。子供達の笑顔と成長ぶりに疲労も吹き飛ばす。今年は山梨。また参加させてもらいたい。

◆浄土真宗ビハラ（仏教ホスピス）の会合に出席し、癌患者の生の声を聞く。老病死は誰もが避けて通ることのできぬ現実。仏教には死に直面した人々の充実した生を支える教えがあることを再確認。

◆組報『かながわ』は、川崎市と横浜市北部・中部に散在する浄土真宗本願寺派寺院の協力で刊行されている。ご門徒のための広報誌です。ご意見をお寄せください。



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

浄土真宗 最乗寺

〒224 横浜市都筑区勝田町1277  
電話 045 (941) 3 5 4 1

組報かながわ No.8

■発行日 1995年3月15日  
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派  
東京教区神奈川組  
基幹運動推進委員会

〒232 横浜市南区大岡2-26-17 善然寺内